四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.13

［発行日］令和元年12月20日　［発 行］四日市看護医療大学　庶務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200　TEL.059-340-0700　FAX.059-361-1401　https://www.y-nm.ac.jp/

ひとり一人が看護の未来を紡ぐ

人口や疾病構造の変化、科学技術の進歩などにより、医療提供体制も相応の整備が求められてきています。地域医療構想や地域包括ケアシステム、多様な生活状況・文化をもつ看護の対象への対応、AI（Artificial Intelligence　人工知能）や IoT（Internet of Things モノのインターネット）などの技術の活用などが代表的なものとして考えられます。医療機関や在宅・地域における様々な看護の場では、対象にもっともよいと思われるケアを提供するために、最新の情報通信技術の活用や多職種との連携が欠かせません。型にはまった看護ではなく、対象に合わせた柔軟性をもち、多職種と連携・協働する力が必要とされます。

2007 年に開学した本学看護学部看護学科は、2020 年 4 月に看護医療学部看護学科と名称を変更いたします。臨床検査学科の新設に伴うものですが、看護学部がなくなるのではなく、まさに他職種とともに看護・医療を深く探究することができるようになるという進化ととらえています。学内で常時、他領域の医療専門職を目指す者同士が学びを深めることができると期待しています。

現在、看護学科では、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」を参考にしながら、看護の将来を見据えた新しいカリキュラムを策定しています。多職種との連携は、臨地実習を中心として学んできましたが、臨床検査学科と協働した学びも考慮しています。新カリキュラムにおいても、先輩方の築かれた四日市看護医療大学のスピリッツを基盤にし、対象の多様性に対応できる看護実践能力をそなえ、専門職としてのキャリアを発達させることができることを大切に考えています。

豊田　妙子　教授

看護職は、人々の生活が営まれるあらゆる場面において、そこに生じる患者 / クライアント・家族・地域のニーズに応えることが求められていることを忘れず、学生・教職員のひとり一人が看護の未来を紡いでいく所存です。みなさまからの変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、衷心よりお願い申しあげます。

令和 2（2020）年 4 月、臨床検査学科が誕生 !!!

「看護学部」は「看護医療学部」へ名称変更

四日市看護医療大学の新学科「臨床検査学科（入学定員 50 人・収容定員 200 人）」が 9 月 6 日に文部科学大臣の認可を受け、令和 2（2020）年 4 月に開設されることとなりました。これに伴い、現在の「看護学部」は「看護医療学部」へと名称変更され、看護学科と臨床検査学科の 2 学科体制となります。

この利点を生かし、臨床検査学科では看護学科との連携教育を推進し、合同授業などを通じて「看護・介護技術も兼ね備えた臨床検査技師」「チーム意識・コミュニケーション能力の高い臨床検査技師」の養成を目指します。

また、中部地方の 4 年制大学として初めて文部科学大臣より臨床検査技師学校として指定を受けた本学科では、より臨床検査技師養成教育に特化し「現場に強い臨床検査技師」を養成します。

さらに、「臨床検査技師」の上位資格となる「細胞検査士」の資格を取得できる「細胞検査士コース（各学年 10 人・認定申請予定）」を開設するほか、「遺伝子分析科学認定士（初級）」・「バイオ技術者（中級・上級）」・「健康食品管理士」など多彩な資格取得をバックアップし、「プラスαの知識・技術を持った臨床検査技師」を養成していきます。

平成31年度 四日市看護医療大学・大学院 入学式が挙行されました

平成31年４月２日(火)　本学13期生及び大学院９期生の入学式が挙行されました。当日は来賓として、四日市市長をはじめ、四日市市議会議長、市立四日市病院副院長、三重県看護協会常任理事にご出席を賜り、保護者・ご家族の方々、教職員参列のもと学部生110名、大学院生１名の新入生が新しい学生生活への第一歩を踏み出しました。

式典では、丸山学長からの入学許可宣言、学長式辞に続き、来賓の方々よりご祝辞をいただいた後、学部生代表の阪口　楓さん、院生代表の内山　泉さんが、これからの学生生活に向け、新たな決意を入学宣言にて述べました。

教員からのメッセージ　Message from Teacher

講師　藤井　夕香

成人学領域では、３年生の９月より領域実習が始まっています。実習前の８月に事前演習を行いました。

フィジカルアセスメントトレーニングとして、モデル(シュミレーターの人形)を使用して心音・呼吸音・腸音の正常音と病態に応じた正常音以外の音を確認しました。学生は真剣な表情で聴診器をモデルに当て、これまで学修してきたことと関連させて復習していました。

血糖測定の演習では、正確な測定値を得るための注意点やその根拠を復習した後、実際に自分の指を穿刺して血糖を測定しました。患者さんの痛みを軽減するための工夫や安心して血糖測定を受けていただくための声掛けなどについてグループで話し合いながら行いました。

聴診も、血糖測定もこれまでの成人看護学の授業で行ったものですが、実習前に復習することで、自信をもって実習に臨めていると思います。実習は２月末まで続きます。これまで学修してきたことを活かし患者さんからたくさんのことを学んでください。

学友会 新入生歓迎会

４月３日(水)、新入生歓迎会が開催されました。

この春から新しく学友会執行委員になった２年生が中心となって、入学式からオリエンテーションと緊張した日々を過ごしてきた新入生たちに楽しんでもらおうと、準備を行いました。

当日は、ジュースで乾杯したあと、軽食をとりながら、クラブ･サークル紹介やビンゴゲームで大いに盛り上がりました。短い時間ではありましたが、これから共に４年間を過ごす仲間や先輩たちと打ち解けた様子でした。

令和元年度 教育後援会役員会・総会

5月25日（土）、本学にて令和元年度教育後援会役員会・総会が開催され、岡平会長を含め7名の役員、12名の会員、大学顧問として丸山学長、水野副学長、豊田学科長、室町事務局長が出席しました。両会では平成30年度事業報告及び決算、令和元年度役員選出、事業計画及び予算等について審議され、原案通り承認されました。ご参加いただいた役員並びに会員の皆様、この場をお借りして心より御礼申し上げます。また総会では、質疑応答の時間を設け、参加された会員の方々から国家試験対策や就職に関する質問をいただき、顧問である丸山学長、事務局からご回答させていただきました。次年度も総会へのご参加、忌憚のないご意見を教職員一同、心よりお待ちしております。

令和元年度 保護者懇談会

10月5日(土) 教育後援会主催の保護者懇談会を開催いたしました。

教育後援会会長岡平様を始め、会員皆様のご支援により59組74名の方に参加いただきました。この場を借りて教職員一同、深く御礼申し上げます。

今年度は、全体会の中で水野副学長より新学科「臨床検査学科」についての説明があり、本学は、文字どおり看護医療大学として令和2年4月から新たな使命を担うことを宣言しました。

また、毎年ご好評をいただいております講演会では、本学の卒業生であり同窓会会長でもある葛谷直樹氏を講師にお招きし、講演をいただきました。母校への愛、在校生である後輩達への愛に溢れる素晴らしい講演会となりました。

午後からは場所を学生食堂に移しランチを交えて教員との交流を深めていただき、その流れで全参加者の方に教員との個別面談を実施しました。1組15分程度の面談ではありましたが、日頃のご子弟の様子を知っていただくいい機会になったと思います。

今回は、全体会やアンケート用紙などでたくさんの貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見を集約しフィードバックすることで次年度に繋げていけるよう、教職員一同より一層精進してまいります。引き続きご支援、ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスが、7月20日(土)、8月5日(月)、8月25日(日)に行われました。今年は午前に新学科の「臨床検査学科」、午後に「看護学科」という2部構成で行われました。今年も多くの高校生とその保護者様にご参加いただき、本学への関心の高さは引き続き高い状況にあると感じられました。

当日の内容として、両学科ともに副学長の挨拶から始まり、四日市市健康福祉部様から本学の支援制度などについてお話しをいただき、その後、大学概要、学科説明や入試説明、模擬講義や施設見学などを行いました。そして、学生ホールでは、入試や奨学金などについて相談する個別相談コーナーのほか、看護学科では看護実習体験や在学生と直接話しができる「先輩と話そうコーナー」を設け、熱心に質問する参加者で賑わっていました。

参加された方の声をお聞きすると、今後の進路や目標を決めるにあたっての有意義な機会の提供になったと思われます。

教職研修の活動について

FD研修会について

FD 委員会委員長　副学長　水野　正延

大学の教育活動ではお馴染みの FD という単語は、一般には聞き慣れない言葉です。FD とは Faculty Development の略で、「教育内容・方法等、研究や研修を大学全体として組織的に行うこと」を意味します。

四日市看護医療大学は3つの基本理念を掲げています。すなわち「人間重視を根幹とした教育研究の実践」「高度な知識・技術の教授と研究」「地域社会への積極的な貢献」です。これらの理念を実現するために教員は自己研鑽のみならず、大学で行う組織的研修も受講します。

研修会の内容は多彩です。本学では令和４年度から新しい教育課程の実施を予定しています。そのため今年度の研修会は、８月８日（木）に三重県立看護大学の菱沼典子学長にお越しいただき、テーマを「カリキュラム改正に向けて」として講演いただきました。FD 研修会の計画・実施・評価を担当するのが、四日市看護医療大学 FD 委員会です。

ハラスメント対策研修会

ハラスメント対策委員会委員長　畑中　純子

ハラスメント対策委員会は本学の学生・大学院生および教職員がハラスメントやさまざまな差別や偏見などの人権侵害を被ることなく、個人が尊重され、安全で公正な環境のもとで学び、研究できるようにハラスメントの防止に取り組みます。

その一環として、教職員には年に１回研修会を開催し、ハラスメントへの理解を深め、ハラスメントが生じない環境づくりに取り組んでいます。昨年度は「風通しの良い職場つくりのために、できること、すべきこと～ハラスメントを考える～」をテーマに白石恵美子先生に講演をいただきました。毎日の繰り返しの中で、当たり前になり慣れてしまった環境を見直すことのできる具体的な内容でした。今年度は2020 年３月に再度、白石恵美子先生を講師に招き、ハラスメントの防止をさらに一歩進められるような研修会を開催する予定です。

このような継続した対策により学生・大学院生への快適な学習環境を提供していきます。

教職員研修

局長　室町　律雄

本学では、大学職員としての能力の向上とともに、社会人としての資質向上を図るため、学内・学外の研修等を通じてその取り組みを進めています。

研修は、大学を取り巻く厳しい状況に対応していくため、知識の積み上げだけでなく、高等教育を取り巻く状況を分析する能力や戦略的な経営思考、企画能力など、大学人として求められる能力の養成を目指すとともに、改革意識を促すものと位置づけています。

2019 年度、教員においては、授業カリキュラム編成についての研修などを行い、事務職員は、学校会計や働き方改革の研修に取り組んだほか、四日市大学及び暁高等学校と合同で高校・大学連携にかかる研修を実施。12 月には三重県下の私立大学合同で教職員対象のハラスメント研修を予定しています。

今後も、様々な研修を活用しながら教職員の能力と資質の向上に努め、良好な教育環境を整えてまいります。

令和元年度　社会貢献活動

公開講座　「見逃さない！ 脳卒中の兆候に気づいて対応する！！」

教授　杉崎　一美

令和元年7月13日(土) に、じばさん三重５階大研修室を会場にして公開講座「見逃さない！脳卒中の兆候に気づいて対応する！！」を行いました。

講師は杉崎一美教授(成人看護学領域) が担当し、脳卒中の種類や初期診断の流れについて講義をいたしました。

講義の中で、「FAST」(注1)と呼ばれる脳卒中を疑う症状が見受けられた際、迷わずに医療機関へ受診するようにとの話が出た場面では、受講者のメモを取る様子が見受けられ真剣に聞いている様子がうかがえました。

(注1)「FAST」とは…顔の麻痺 (Face)、腕の麻痺 (Arm)、ことばの障害 (Speech) の頭文字を組み合わせたものです。T は時刻 (Time) の頭文字で、発症時刻 (Time) のことです。三つの症状の有無と発症時刻を確認して、一刻も早く救急受診するよう呼びかけるスローガンです。

みえアカデミックセミナー

「家庭内における子供の事故予防」

准教授　別所　史子

令和元年７月30 日に三重県総合文化センターにて「みえアカデミックセミナー」に参加いたしました。

「みえアカデミックセミナー」は県内の大学・短大・高専・放送大学を含めた高等教育機関との連携で生まれた公開セミナーです。

本年は小児看護学領域の別所史子准教授が担当し、子どもは日々成長しているので思いもよらない事故が起きる可能性があることや、子どもの年齢によって起きやすい事故の特徴があるため、それぞれの成長に合わせた対応が必要であると説明がありました。また、子どもが誤って飲み込んでしまうと危険な物の中にはプチトマトなどもあり、身近な食材にも注意が必要なことなど、事故情報に敏感になり、各家庭ごとに対策を立てて事故を予防してほしいとの話がありました。

また当日会場では、家庭内での子どもの事故予防に関する啓発グッズも展示され、参加者が興味深く観察する様子が見受けられました。

高齢者向け生涯学習プログラム

「いつまでも自分の足で歩くために ～ロコモーショントレーニングで ロコモーティブシンドロームを予防しましょう～」

教授　柿原加代子、准教授　小笠原ゆかり、准教授　草野　純子、講師　藤田佳子、講師　高田真澄

令和元年10 月10 日に本学５階基礎看護学実習室にて、高齢者向け生涯学習プログラムを開催いたしました。

前半は講義形式で行われ、柿原加代子教授よりロコモーティブシンドロームについての概要が説明されました。

後半は演習形式にて行い、ロコモ度チェック、ロコモ予防体操を参加者全員で実施しました。

ロコモ度チェックでは、日ごろ運動をしている方でも思った以上に体がなまっていたり、自身の体について新たな気づきがあったりとそれぞれ自分の体を見直す良い機会となったようです。

参加者からは、「運動することの重要性が再認識できた」、「ロコモについての理解が深まった」等の感想があり、満足していただけたようでした。

以上、ご参加いただいた皆様に改めて感謝を申し上げるとともに、今後も地域に開かれた大学となるようより一層の努力を続けてまいりたいと思います。

臨地実習について

実習委員長　水野　正延

大学の教育課程における授業は、講義、演習、実験、実習、実技に区分されています。看護学基礎教育においては、実技は演習の中に組み込まれて教授されます。講義、演習など学内にて学習した原理・原則を、実際の場面で実践するのが臨地実習であり、看護学教育においては極めて重要な位置づけとなります。

臨地実習は、段階的に学びを深められるように組み立てられています。2 年次までに基礎看護学実習を終了し、3 年次では各領域別実習(成人、老年、母性、小児、在宅、精神) を学び、そして4 年次では臨地実習の集大成となる統合実習に取り組みます。

臨地実習の指導は、教員だけでなく医療機関や福祉施設など、臨地実習を担当していただく施設の指導者も教員と協力して学生指導に当たります。学生は日々変化する患者さんや対象者を一人受け持たせていただき、アセスメントして看護計画を立てケアを実践します。教員や指導者からの指導は厳しいので、学生は息が抜けません。

2 年次から4 年次にかけ、さまざまな場所で、ライフステージや健康レベルの異なる生活者を対象に臨地実習を体験した学生の成長は、本当に目を見張るばかりです。

実習体験記

看護学科 3 年生　渡邊明日香

最初の実習は小児病棟、NICU へ行かせて頂きました。

患児は家族が傍にいるか否かで機嫌や治療に対する意欲が変化します。小児病棟に入院している患児をもつ家族は仕事や家事、兄弟の世話を兼ねながら昼夜問わず付き添っていることから、家族への負担の大きさを目の当たりにしました。現場で、家族は患児のことを最優先に考えて気丈に振る舞っているというお話を伺った際、講義で学習した、家族への支援は患児への支援と同じくらい大切だということが実習を通して実感することができました。また、小児科も継続的な医療的ケアが必要な場合があり、家族の戸惑いや不安を少しでもなくせるよう、入院時から退院後の生活を見据えた支援が必要だと指導者さんより教えて頂きました。

今後の実習も患者さんだけでなく家族も含めた支援の大切さを忘れず、退院後の生活も視野に入れた看護を考えていきたいと思います。

入試広報課紹介

入試広報課としての業務は、大きく学生募集と入試運営の二つです。具体的な業務内容としては、パンフレットやホームページなどを活用し、高校生やその保護者へ大学の魅力を発信します。大学に興味を持っていただいた方に対しては、進学相談会、オープンキャンパスなどで、本学への認知を深めていただき、最終的には入試への出願、受験、そして入学までつなげていただくよう日々活動しています。今後は新設される臨床検査学科の魅力を、県内外の高校生へ伝えていきたいと思います。

海外研修

CALIFORNIA

2年生：光田　明里

カリフォルニアでの２週間は、午前中は英語の授業を受け、午後からは英語での講義や病院見学、また予定のない日はカリフォルニアを満喫しに出かけたりと、大変忙しく多くの刺激を受けた日々でした。

英語の授業は基本的な挨拶の仕方から症状・病名、問診の方法まで、看護で使われる医療用語を英語で学ぶ参加型の授業でした。英語で学ぶ難しさはありましたが、先生の丁寧な対応と仲間との協力とで最後まで楽しく授業を受けることができました。

午後の講義や病院見学では日本との看護の違いについて多くの学びを得ることができ、大変貴重な経験をすることができました。NP制度、保健制度の違い、多文化社会など、日本とは違った要素に興味を惹かれ、毎回多くの質問が飛び交い時間内に収まらないほど非常に充実した時間を過ごすことができました。

また、特別な２週間を共に過ごしたことで、普段あまり話さなかった人とも仲良くなり、最後には家族のように思えるほど仲を深めることもできました。

今回の研修で得られた経験や知識を無駄にしないようこれまで以上に学びを深め、少しでも自分の目標とする看護師像に近づけるように仲間と共に成長していきたいと思います。

引率教員：吉川　尚美

７月28日（日）～８月12日（月）までの16日間、2019年度海外研修に引率いたしました。今年度は、女子学生22名の参加でした。学生は国際看護事情の講義の中で、研修先で学びたいテーマを明らかにした上で研修に臨みました。

午前は語学研修、午後のナーシングレクチャー後は、市バスに乗ってビーチやショッピングに出かけていました。夜はバレーボールやUNOを楽しむなど、勉強も遊びも全力で取り組むパワーに圧倒される毎日でした。病院見学や施設見学では、予定時間を超過するほど積極的に質問する姿がとても印象的でした。

ほとんどの学生は初めての海外生活でしたが、好奇心が旺盛で、英語が通じた時に喜ぶ笑顔からも充実感が溢れていました。常に気配りができ団結力のあるチームで、何事にも一生懸命な姿から私自身も良い刺激を受けました。異国の文化に触れて戸惑いもありましたが、集団生活を通して大きく成長できたと思います。

最後になりましたが、研修をサポートして下さったすべての関係者の皆様と素敵に輝いていた学生に、心から感謝いたします。

クラブ紹介　ハンドマッサージ部

２年生　川邊　涼夏（ハンドマッサージ部主将）

ハンドマッサージサークルは、今年度新たに創設され、現在１年生から３年生までの学生45名で活動しています。

活動内容は、学内で月２回程度、学生同士互いにハンドマッサージを施し合いながら、手技の向上を目指すことはもちろん、日々の疲れを癒しながら、先輩や顧問の先生に日頃の悩みなどを相談できる機会ともなっており、毎回楽しく活動しています。

学外活動では２カ月に１回程度、これまで３回、認知症カフェを訪問し、主に高齢者の方々にハンドマッサージをさせていただいており、学生たちにとって高齢者の方々と交流できる貴重な機会となっています。高齢者との交流の中で、やりがいを感じたり、手技やコミュニケーションの向上を図ることができます。

まだ新しいサークルですが、これからも新たな仲間を増やすとともに、活動の範囲を広げ、多くの方々と交流してきたいと考えています。

よんよん祭

2019年10月26日(土)・27日(日)

大学祭テーマ
「Toward」

本学大学祭は、今年で四日市看護医療大学としては13回、四日市看護医療大学・四日市大学合同大学祭「よんよん祭」として11回目の大学祭を行いました。

模擬店、カラオケ大会、お笑いコンテスト、クイズ大会、ファイヤーパフォーマンスなどをはじめ、多くのイベントを実施しました。

また、看護学部では、今年も看護棟1階から5階を使用し、『プチっとナース体験』を実施、幅広い年代の多くの方にご参加いただきました。

プチっとナース体験
妊婦体験

実行委員コメント

今年も無事、大学祭が開催できたこと、そして 3 年目となる『プチっとナース体験』もご好評をいただき、無事終了することができました。

ご参加いただいた皆様には「カラダの仕組みがよくわかった」「健康に気をつけようと思う」「ハンドマッサージに癒された」「四日市看護医療大学学生活動を知ることができて良かった」など、嬉しい感想をたくさんいただきました。

なかには、毎年楽しみにしているという地域の方々の感想は、このイベントの企画から準備、そして当日運営など、本当に大変でしたが、やって良かったと思えた瞬間でした。

最後となりましたが、本企画を応援してくださった皆様、支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

学友会会長　松永　妃那子（2 年生）

「がん教育」公開勉強会を開催して

令和元年10月6日（日）に第9回がん検診アクションプロジェクトとして「がん教育」について公開勉強会が本学で開催されました。

現在、がんは国民の2人に1人が罹患しており、がんの予防・早期発見がとても重要です。2016年度末に改正された「がん対策基本法」でがん教育が法律で位置づけられ、一部の学校でがん教育が取り組まれています。よっかいちキャンサーリボン実行委員会では、がん患者の親及びその子どもへの関わり方について知って頂くためにゲスト講師をお招きしました。当日は医療関係者だけではなく、学校関係者、一般の方々と様々な方の参加がありました。実際にがん患者の親とその子どもへの関わり方についてだけではなく、周囲のサポートがとても大切であるということを再認識することができました。

会場では実行委員の学生が作成したがん予防の啓発ポスターを掲示し、参加者にがん検診啓発エコバックの配布を行いました。どちらも大変好評であり、啓発促進につながる活動ができたのではないかと思います。

よっかいちキャンサーリボン実行委員・助手　森智子

高大連携について

暁高校との高大連携事業として、1年生、2年生は出張講義、3年生は大学講座体験という形で実施しています。1年生の出張講義は、10月3日（木）医療系進学を希望する生徒を対象とし、大学の講義でも活用しているPF-NOTEとクリッカーを使った生徒参加型の授業を行いました。2年生の出張講義は、6月17日(月)、7月8日(月)に看護コースを選択された生徒を対象とし、より専門的な看護学の講義を受講していただきました。そして、3年生の看護コースを選択された28名については、6月25日(火)午後に本学へ高校の先生方と共に来校し、本学の講義に参加する形で大学講座体験をしていただきました。講義の中で、生徒達は一応に緊張し、在学生の真剣なやりとりに圧倒される場面も見られましたが、次第に大学教員、在学生から指導を受けるうちに雰囲気にも慣れ、在学生ともしっかりとコミュニケーションをとりながら取り組む姿が印象的でした。

この高大連携事業が、暁高校からの本学への進学、あるいは医療系養成校進学への意識向上につながるよう、今後も引き続き高大連携事業の改善を図っていきたいと考えます。

学友会運動会

5月18日(土)、今年は暑さ対策もあり、体育館で学友会主催の親睦運動会を実施しました。その目的は、学年を超えた交流で、多くの人とつながりながら充実した大学生活を送るためのきっかけにして欲しいと、学友会が企画しました。

当日は1年生から3年生約70名が参加、学年・男女関係なく4チームに分け、まずはチームの団結を高めるため、アイスブレイクを行いました。

その後は、優勝チームやMVP受賞者に与えられる豪華景品をめざし、ダンシング玉入れや障害物競走、ドッジボールのチーム対抗戦が行われ、熱戦が繰り広げられました。

チーム内の雰囲気も最初はぎこちないところもありましたが、すぐに打ち解け、みんなで応援しあったり、喜んだり悔しがっていました。

短い時間でしたが、先輩・後輩のつながりもできたと思います。このつながりを、今後の大学生活に、ぜひ活かして欲しいと思います。

四日市看護医療大学
2018年度（2019年3月）卒業生

就職・進路相談

就職率・進学率 100%
4 割が公務員に！

2018 年度卒業生はそれぞれの看護の道に羽ばたいていきました。看護学生を取り巻く就職環境は、年々、厳選採用、採用時期の早期化、短期決戦へと移行しており、本学学生においてもゴールデンウィークをピークに４月から６月までに65% が、７月には90% 以上が内定を得る結果となりました。この時期、ゼミ講義、統合実習、国家試験対策等多忙を極める学生ですが、この流れに乗り遅れないよう、また、主体的な就職活動ができるよう、本学はアドバイザー教員を中心に全学的な体制で学生をサポートしています。

◆**全体の 40% が地方公務員**となり、独立法人化された準公務員なども含めると 86%が何らかの公的医療機関に就職を果たしました。このことからも依然として公務員や公的な職場への人気の根強さが窺えます。

◆地域別では、**地元三重県への就職者数が 63%** となり、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に応えることができました。

◆**実習先病院には、40% が就職**しており、本学の教育と就職が密接に関わっていることを裏付ける結果となりました。

日本は、2025 年には団塊の世代が全て７５歳以上の高齢者となり、2040 年には団塊ジュニア世代が 65 歳以上の高齢者となるなど、急速に高齢化が進んでいきます。2018 年度の診療報酬改定※でもキーワードとなったのは、やはり「地域包括ケアシステムの構築」と「医療機能の分化・強化」。このことは看護師の採用や働き方にも密接に関わってきますので本学としても、今後の動向に注視しながら、適切な学生支援を展開していく所存です。

※診療報酬改定：医療機関の診療に対して保険から支払われる報酬の改定で２年毎に見直される

国家試験合格率

- **看護師：98.1%**（受験者 104 名／合格者 102 名）
- **保健師：78.7%**（受験者 47 名／合格者 37 名）
- **助産師：100%**（受験者 10 名／合格者 10 名）

平成 30 年度 卒業式 & 卒業記念品

平成31 年３月 10 日（日）、四日市都ホテルにて、学位授与式を行いました。

春の気配が感じられるよき日に、105 名の卒業生、４名の修了生がそれぞれの進路へ巣立っていきました。卒業記念品事業として学食の照明器具一式を寄贈いただき、お昼のひとときもあたたかみのある光で、さらにリラックスできる空間となりました。

大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

2018 年度 就職・進路状況（2019 年３月卒業者）

（単位：人 ,%）

卒　業　者		105
就　職	就職希望者	103
	就職者	103
	就職率	100%
進　学	進学希望	1
	進学者	1
	進学率	100%
その他		1

就　職　先　名		合 計
三　重	市立四日市病院	29
	三重県立総合医療センター	6
	四日市羽津医療センター	3
	伊勢赤十字病院	4
	鈴鹿中央総合病院	1
	三重大学医学部附属病院	12
	松阪中央総合病院	2
	村瀬病院	1
	桑名市総合医療センター	3
	山咲苑	1
	ヤナセメディケアグループ	1
	津市（保健師）	1
	朝日町役場（保健師）	1
	小　　計	65
愛　知	愛知医科大学病院	1
	愛知県精神医療センター	1
	一宮西病院	1
	海南病院	3
	小牧市民病院	1
	藤田医科大学ばんたね病院	1
	藤田医科大学病院	4
	名古屋セントラル病院	1
	名古屋市立西部医療センター	2
	名古屋市立大学生病院	3
	名古屋大学医学部病院	3
	名古屋第一赤十字病院	3
	名古屋掖済会病院	3
	名城病院	2
	その他	1
	小　　計	30
静　岡	榛原総合病院	1
	静岡県立総合病院	1
東京都	東京大学医学部附属病院	1
千　葉	千葉西総合病院	1
福　井	福井大学医学部附属病院	1
大　阪	淀川キリスト教病院	1
兵　庫	三菱神戸病院	1
熊　本	福田病院	1
他府県	小　　計	8
合　　計		103

進学先：助産専門学校（1 名）

高等教育の修学支援新制度（授業料減免・給付型奨学金）について

四日市看護医療大学は、「大学等における修学の支援に関する法律」に基づいた「高等教育の修学支援新制度」の対象校として、文部科学省より認定されました。2020年4月より開始される「高等教育の修学支援新制度（授業料減免・給付型奨学金）」の（在学予約）申込説明会を本学の対象となる2020年度在籍予定の学部生に対して、10月29日、31日、11月1日で実施いたしました。説明会では、配布資料をもとに最初に修学支援新制度の概要及び支援対象の拡大や学業成績等の要件、進学資金の検索方法についてお伝えし、次に授業料減免及び給付型奨学金の具体的な申込手続方法及び今後のスケジュール等について説明いたしました。対象学生は、今後の学生生活に係る負担軽減もあり、熱心に聞いて頂いたようです。今後も支援新制度を十分理解して、学生支援に努めていきたいと考えています。

令和元年度 宮﨑徳子奨学金・長江拓子奨学金授与式（および河野啓子賞表彰式）

6月27日（木）、宮﨑徳子奨学金および長江拓子奨学金授与式を開催しました。

宮﨑徳子奨学金は、開学以来、学科長、学生支援センター長、学長補佐を歴任され、現在に至るまで本学の発展にご尽力いただいている宮﨑徳子先生から頂戴したご寄付を基に創設された奨学金です。また、長江拓子奨学金は、本学で教鞭を取られた後、顧問としてお力添えをいただいた長江拓子先生から頂戴したご寄付を基に創設された奨学金です。

この二つの奨学金制度は、本学の学生がより一層学習意欲を高め、看護専門職業人となる自己の目標を明確にすることにより、人材の育成に資することを目的としています。

学業成績並びに本学及び社会への貢献等を審査し、宮﨑徳子奨学金は4年生4名、3年生3名の計7名を、また、長江拓子奨学金は2年生1名を、それぞれ本年度の奨学生とすることを決定いたしました。

授与式では、丸山学長から賞状と奨学金が授与され、宮﨑先生からは激励のお言葉や長江先生の功績などをお伺いし、その後は記念撮影。今後、この奨学金を受給された皆さんの、更なるご活躍を期待します。

なお「河野啓子賞」表彰式は、来年2月に実施される予定です。

統計学セミナーについて

准教授　工藤　安史

統計学セミナーは、本学の看護研究交流センターの事業として2015年度からスタートしました。当初、学内のみで統計学セミナーを実施しておりましたが、2017年度から病院に出張する形式でも、統計学セミナーを実施させて頂いております。このセミナーの大きな目標は、臨床現場の様々な課題などを解決するために必要な知識を学んで頂くことです。データのまとめ方（例えば、度数分布表の作成やグラフの種類など）を学ぶためのコースや分布の特性値（例えば、平均値、中央値、標準偏差、四分位範囲など）について学ぶコースなど様々なコースを準備させて頂いております。データを適切にまとめ、分布を考察することで、難しい解析を行わなくても、臨床現場の課題を解決するためのヒントが得られることをお話しさせて頂いております。今後とも、このセミナーを通して、少しでも地域貢献ができるように努めたいと考えています。

RUN 伴 2019

10 月 19 日 RUN TOMO 2019　MIE に参加いたしました。

認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベントである RUN 伴。今回で 4 度目の参加となります。

大雨が心配された当日もランナーが走るときだけ小雨になり、四日市市長や認知症の方・ご家族様、市の職員の方々、地域の方々とともに参加した学生・教職員一同すべて走りきることができました。

四日市市マスコットキャラクター「こにゅうどうくん」も応援に来てくれ、たくさんの声援の中無事にタスキを次へとつないでいきました。

学生たちも地域の方々とのふれあいを通して、看護師という専門的な職業を目指すことに向け気持ちを新たにすることができたようです。

ご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。

竹下譲先生（地域研究機構 地域研究センター長）瑞宝小綬章受章

地域研究機構
地域研究センター長
竹下譲先生

令和元年春の叙勲において、竹下譲先生（地域研究機構　地域研究センター長）が瑞宝小綬章を受章されました。

先生は東北大学法学部法律学科をご卒業後、同大学院法学研究科修士課程を修了され、以後、財団法人東京市政調査会（現：公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所）研究員、明治大学、拓殖大学、神奈川大学等で教授等を歴任され、明治大学から博士（政治学）の学位を贈られています。平成 13 年、四日市大学総合政策学部学部長教授に就任、平成 20 年から現職に就かれ今日に至っています。

この度の受章は、教育委員会委員及び委員長として県の教育行政に尽力されたこと、多年に亘る実証的なイギリス政治研究が評価されたこと、マニフェスト（政権公約）の導入を提唱し、その普及につなげたことなど、行政学の教育・研究をはじめ地方教育行政に長年尽力してこられた功績が認められたものです。

本年度 学位記授与式

令和 2 年 3 月 10 日（火）　四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。

コラム

ワールドカップで国民の期待を背負い、素晴らしい結果を出したラグビー日本代表、開催年である来年に向けて、これから更なる盛り上がりを見せるであろう東京オリンピック。

いつの時代も、私たちはアスリートの努力する姿、必死にプレーする姿に感動をもらってきました。

スポットライトを浴びるその一瞬のためだけに彼らは人生を賭し、だからこそその光は強く、色濃く輝いて見えるのではないでしょうか。

名作バスケットボール漫画「スラムダンク」に登場する安西先生はこう言います。

「あきらめたら、そこで試合終了ですよ。」

劣勢でも決して屈せず、最後まで努力をし続けることこそが人間の本質なのだと。

本学の建学の精神である「人間たれ」にも通ずるそのメッセージを胸に、今後も皆様から愛される大学、感動を与える大学を目指して日々精進を続けていきたいと思います。

［発行日］令和元年12月20日　［発 行］四日市看護医療大学　庶務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200　TEL.059-340-0700　FAX.059-361-1401　https://www.y-nm.ac.jp/